

【古典文法 動詞 識別②】

問 次の文中にある傍線部の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

- |      |      |     |     |     |
|------|------|-----|-----|-----|
| (13) | (10) | (7) | (4) | (1) |
| (14) | (11) | (8) | (5) | (2) |
| (15) | (12) | (9) | (6) | (3) |
- ① この児、さだめておどろかさんざらんと、待ちゐたるに、（宇治拾遺物語）
- ② 故郷の人の來たりて、物語すとて、「あづま人こそ、言ひつることは頼まるれ、（徒然草）
- ③ ほのうち霧りたる朝の露もまだ落ちぬに、殿、歩かせ給ひて御隨身召して、（紫式部日記）
- ④ その日は、女君に御物語のどかに聞こえ暮らし給ひて、例の、夜深く出で給ふ。（源氏物語）
- ⑤ 所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十人が中に、（方丈記）
- ⑥ 同じ所に住む人の、かたみに恥ぢかはし、いささかのひまなく用意したりと思ふが、（枕草子）
- ⑦ 左右の大臣に世の政を行ふべきよし宣旨下さしめ給へりしに、その折、左大臣、（大鏡）
- ⑧ 大納言なりける人、小侍従ときこえし歌詠みに通はれけり。（今物語）
- ⑨ ただこの西面にしも、持仏すゑたてまつりて行ふ尼なりけり。（源氏物語）
- ⑩ 等身に薬師仏を造りて、手洗ひなどして、人まにみそかに入りつつ、（更級日記）
- ⑪ と申しければ、木曾、「さらば。」とて、粟津の松原へぞ駆けたまふ。（平家物語）
- ⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、今はとて見えざなるを、心ある者は、（土佐日記）
- ⑬ 在り所は聞けど、人の行き通ふべき所にもあらざりければ、（伊勢物語）
- ⑭ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、（平家物語）
- ⑮ と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来る。」と言へり。（伊勢物語）

【古典文法 動詞 識別②】 解答

問 次の文中にある傍線部の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

① この児、さだめておどろかさんずらんと、待ちゐたるに、（宇治拾遺物語）	② 故郷の人の來たりて、物語すとて、「あづま人こそ、言ひつことは頼まるれ、（徒然草）
③ ほのうち霧りたる朝の露もまだ落ちぬに、殿、歩かせ給ひて御隨身召して、（紫式部日記）	④ その日は、女君に御物語のどかに聞こえ暮らし給ひて、例の、夜深く出で給ふ。 （源氏物語）
⑤ 所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十人が中に、（方丈記）	⑥ 同じ所に住む人の、かたみに恥ぢかはし、いさきかのひまなく用意したりと思ふが、（枕草子）
⑦ 左右の大臣に世の政を行ふべきよし宣旨下さしめ給へりしに、その折、左大臣、（大鏡）	⑧ 大納言なりける人、小侍従ときこえし歌詠みに通はれけり。 （今物語）
⑨ ただこの西面にしも、持仏すゑたてまつりて行ふ尼なりけり。 （源氏物語）	⑩ 等身に薬師仏を造りて、手洗ひなどして、人まにみそかに入りつつ、（更級日記）
⑪ と申しければ、木曾、「さらば。」とて、粟津の松原へぞ駆けたまふ。 （平家物語）	⑫ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、今はとて見えざなるを、心ある者は、（土佐日記）
⑬ 在り所は聞けど、人の行き通ふべき所にもあらざりければ、（伊勢物語）	⑭ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、（平家物語）
⑮ と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。 （伊勢物語）	
① サ 行 四 段 ・ 未 然	② サ 行 变 格 ・ 终 止
④ ヤ 行 下 二 段 ・ 連 用	⑤ マ 行 上 一 段 ・ 連 用
⑦ ハ 行 四 段 ・ 終 止	⑧ ハ 行 四 段 ・ 未 然
⑩ サ 行 变 格 ・ 連 用	⑪ ハ 行 四 段 ・ 連 体
⑬ 力 行 四 段 ・ 已 然	⑫ ヤ 行 下 二 段 ・ 未 然
⑯ ラ 行 变 格 ・ 終 止	⑰ カ 行 变 格 ・ 未 然